

# Economic Indicators

発表日: 2023年5月31日(水)

## 鉱工業生産(2023年4月)

～事前予想を下振れ。4-6月期も停滞感が強い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
22年	1月	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲1.3	▲0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲6.2	▲5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲5.1	0.8	1.4	▲3.7
	3月	0.3	▲1.7	0.6	▲2.4	▲0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲1.5	▲6.6
	4月	▲1.5	▲4.9	▲0.3	▲4.6	▲2.3	4.1	▲2.8	8.4	1.9	▲2.5	0.7	▲5.8
	5月	▲7.5	▲3.1	▲4.1	▲3.1	▲0.9	3.8	3.1	7.9	▲4.2	▲1.9	▲4.6	▲3.4
	6月	9.2	▲2.8	5.0	▲2.9	1.9	4.2	▲1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲3.6
	7月	0.8	▲2.0	1.2	▲2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲1.7	9.6	▲2.5	9.4	2.9	6.1	5.1	5.4	▲3.5	13.4	▲4.2	19.8
	10月	▲3.2	3.0	▲1.7	4.1	▲0.5	5.0	▲4.5	2.8	▲4.2	9.1	0.1	7.1
	11月	0.2	▲0.9	▲0.1	▲0.5	0.3	3.8	3.3	6.9	▲3.6	4.9	2.5	1.8
	12月	0.3	▲2.4	▲0.9	▲3.1	▲0.4	3.3	1.5	10.1	1.9	3.6	2.7	▲0.3
23年	1月	▲5.3	▲3.1	▲3.7	▲3.0	▲1.0	3.1	2.8	10.0	▲7.9	▲3.2	▲6.4	1.3
	2月	4.6	▲0.5	3.9	0.9	1.3	2.2	▲1.8	5.2	2.7	3.7	4.3	4.9
	3月	1.1	▲0.6	0.8	0.1	0.2	2.9	1.1	6.8	▲0.7	1.0	1.7	7.2
	4月	▲0.4	▲0.3	▲0.4	▲0.8	0.3	5.4	▲0.5	9.7	1.3	▲1.0	▲0.4	5.5
	5月	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6月	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)23年5月、6月は、製造工業生産予測調査の数値

### ○事前予想を大きく下振れ

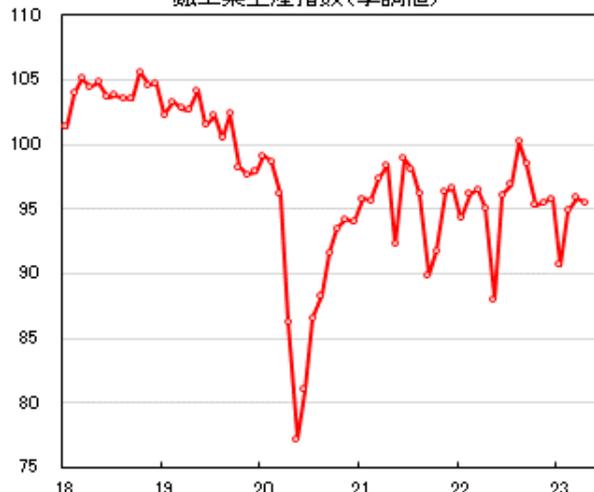
経済産業省から公表された23年4月の鉱工業生産は、前月比▲0.4%と3か月ぶりの低下となり、事前の市場予想(前月比+1.5%)を大きく下回る結果となった。供給制約の緩和から輸送機械工業(前月比+1.6%、前月比寄与度+0.28%pt)では持ち直しが続いた一方で、前月まで高い伸びとなっていた反動から生産用機械(前月比▲7.4%、前月比寄与度▲0.66%pt)が大きく下振れた。後述の通り5月、6月の生産計画も冴えず、4-6月期はこれまでの明確な減産傾向から一旦下げ止まるものの、鉱工業生産は停滞感の強い状況が続くようだ。

### ○自動車の持ち直しが下支えとなるも、全体の基調は強くない

同時に公表された製造工業予測指数は、5月が前月比+1.9%、6月が同+1.2%となった。5月、6月ともに持ち直しが見込まれているが、予測指数には上振れバイアスがあることに注意が必要である。こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、5月は前月比▲2.6%と明確な減産となる。仮に5月が経産省補正值、6月が予測指数通りの結果となれば、4-6月期は前期比+0.4%と辛うじてプラスが見込まれるが、2四半期連続の減産の後としては物足りない結果に留まりそうだ。半導体等の供給制約の緩和によって主力の自動車生産が持ち直したことが4-6月期の下支えとなるが、生産用機械や電子・デバイス等では均せば減少傾向が続いており、自動車生産を除いた全体の基調とし

ては弱さが続いている。自動車生産についても先行きは楽観視できず、7-9月期以降は米国経済の減速が明確化することにより、海外需要の減少から順調な回復は見込みがたいだろう。総じて、鉱工業生産の先行きは下押し圧力の強い状況が続き、明確な持ち直しがみられるのは年度後半まで待つ必要があるだろう。

(15年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



(15年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 輸送用機械工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。